

公開授業（２） 高等学校地理歴史科「地理 A」

指導者	具志堅 加奈
日時	平成 28 年 10 月 15 日（土） 第 2 限（10：35～11：25）
場所	第 1 社会科教室
学年・組	高等学校Ⅱ年地理 A 選択クラス（イ） 41 人（男子 25 人，女子 16 人）
単元	2 章 人間生活を取り巻く環境 2 節 人々の生活と気候（教 p. 48～49， 54～55）

指導計画（全 3 時間）

- 第 1 次 熱帯の気候と人々の生活 1 時間
- 第 2 次 温帯の気候と人々の生活 1 時間
- 第 3 次 気候区分でとらえる沖縄の姿～ケッペンの気候区分の利用～ 1 時間（本時）

題目 「地理 A」におけるアクティブ・ラーニング型授業～沖縄の気候を題材に～

授業について

ケッペンの気候区分は、植生に着目した気候区分で、気候分野においては地理 A 並びに地理 B の教科書、中学社会でも掲載されている教材である。今回の研究大会においては、そのケッペンの気候区分を利用して沖縄県の気候を理解する授業を行う。同県は、東西約 1,000 km、南北 400 km という広大な海域と 161 の島々で成り立っている。ケッペンの気候区分では、日本は Cfa（温暖湿潤気候）と位置づけられている。この気候区分に基づくと、一年中湿潤で、夏は高温で冬は寒冷となる。しかし、同県の気候は九州各県並びに本土とは異なる。例えば、雪が降らない、1 月に桜が咲くというような特色である。そこで、今回の授業においては同じ日本国内でありながら、日本本土と異なる気候が分布する沖縄県の気候と同県における人々の営みを理解する授業を行う。次期学習指導要領においては、習得した知識や考え方を活用し、学習対象と深くかかわり、問題を発見・解決したり、自己の考え方を形成したりすることによって、生徒が主体的に深く学ぶことができる授業が求められる。今回の授業においては、グループで協力し、沖縄の気候区分を作成するという目標の元、生徒たちがこれまで学習してきた雨温図とハイサーグラフの読み取りの技能、雨温図の見方とつくり方を生かして、グループで協力して気候区分を作成できるようにしていきたい。

本時の指導目標

沖縄県の雨温図を基にハイサーグラフを作成し、気候の特徴を読み取り、説明できるようになる。

本時の評価規準

- ① 課題「ミニレポート 沖縄の気候区分の特徴を説明しよう」
- ② ルーブリック

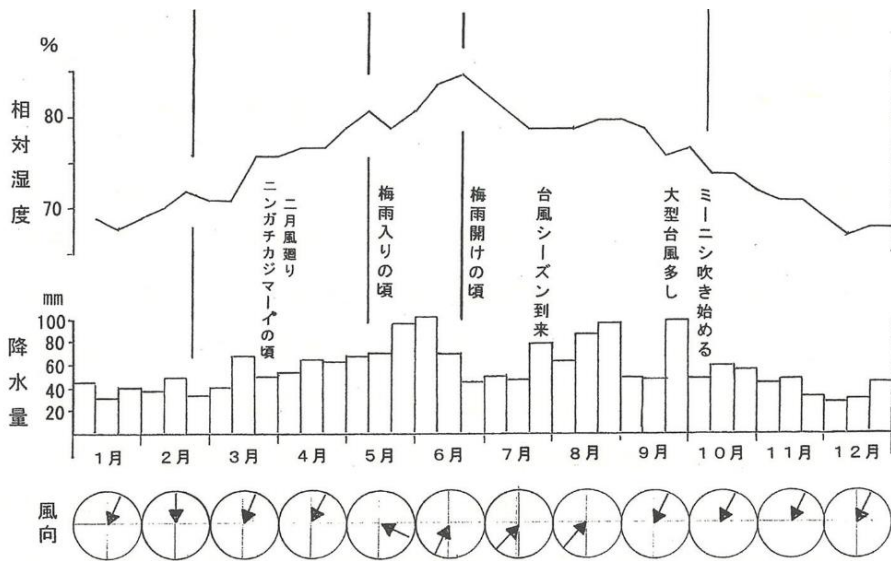
評価	評価指標
3	気温、降水量の年間の変化量に基づき、気候区分を説明できている。
2	ハイサーグラフの類型に触れて、気候区分を説明できている。
1	気温、降水量の大小のみ記述している。

本時の学習指導過程

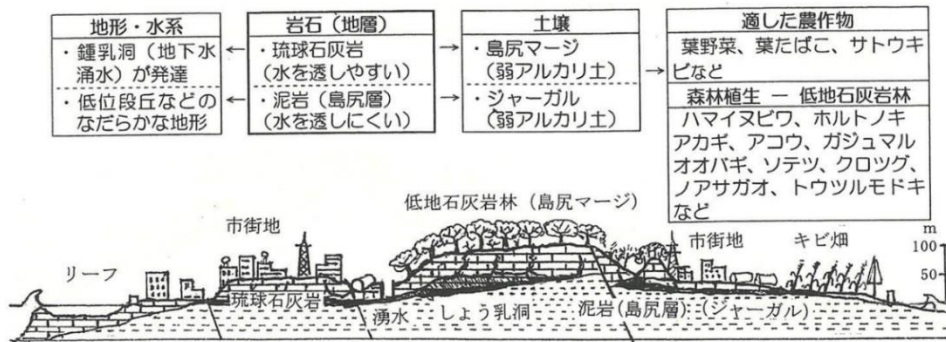
学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
前時 導入 5分	発問：熱帯と温帯の気候が持つ特徴を整理する。	・ワークシートにまとめる。 (関心・意欲)
ハイサーグラフの作成 展開①20分	・沖縄県内6か所(那覇市、宮古島市、石垣島市、南大東島、渡嘉敷島、与那国島)の気温と降水量を表した表とグラフシートを利用して、以下の手順で行う。 1. 月平均気温と月降水量を読み取る。 2. 縦軸を平均気温、横軸を降水量とし、両方の値の交点に点を打つ。これを12か月分行う。 3. 1月～12月の点を結んで閉曲線とする。	・配布したデータを読み取ることができる。(知識・技能) ・6名で分担して作業をすることができる。(態度) ・行動観察
気候区分の判定 展開②20分	・グループ6名で話し合う。作成した資料、教科書、資料集を使用して、ワークシートをまとめる。その際は、以下の手順で行う。 1. 気候区分を自分で予想する。 2. 予想に基づいて、根拠をまとめる。 3. 各自ミニレポートにまとめる。	・気候区分を予測することができる。 (思考・判断) ・資料を用いて自分の言葉でレポートを作成することができる。(表現) ・行動観察
授業アンケート まとめ	・3つの評価項目に基づき、自己評価を5段階で出す。 1. 自分で予想を立てられたか。 2. グループで分担してハイサーグラフを作成できたか。 3. 根拠を示して、ワークシートをまとめられたか。	・本時の学習を振り返る。 ・それぞれの予測と根拠に基づいてまとめることができたかを特に重視する。
<p>参考文献</p> <p>沖縄県企業局「給水制限の歴史」(https://www.eb.pref.okinawa.jp/oheb/24/28)</p> <p>安座真安史『沖縄の自然歳時記 季節と生きものたち』(沖縄文化社)</p> <p>中山満・堂前亮平『沖縄の地理一島の自然と生活一』(新星図書出版)</p> <p>沖縄観光コンベンションビューロー『うちなー観光教本』(沖縄県)</p>		

本時の授業で使用した資料

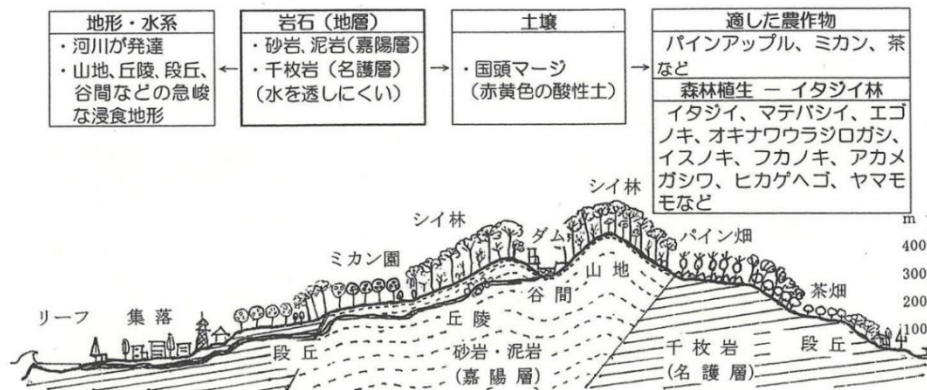
★沖縄県の気象概況 (安座間『沖縄の自然歳時記』より)



★沖縄県の地形 (安座間『沖縄の自然歳時記』より)

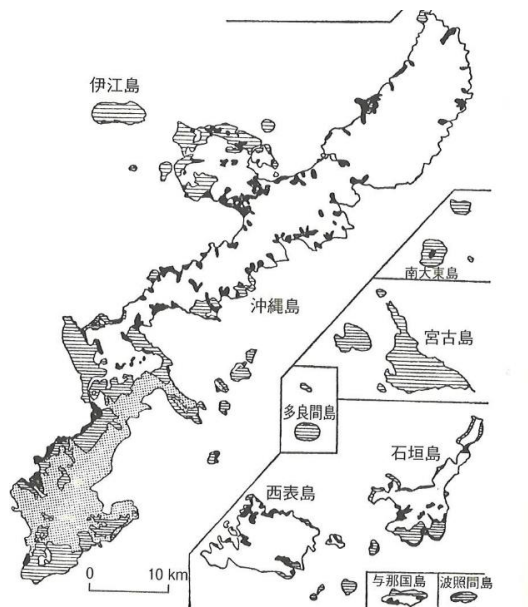


低島の自然概況

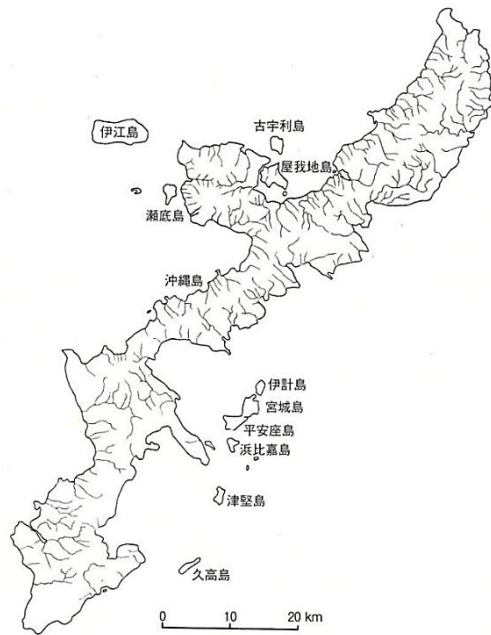


高島の自然概況

★沖縄県の土壌と水系 (中山・堂前『沖縄の地理—島の自然と生活—』より)



- 国頭マージ
- 島尻マージ
- ジャーガル
- 沖積土壌



★年ごとの変動が大きい降水量～1981 年の場合～（気象庁 過去のデータより）

1981年那覇	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	全年
気温	15	16.3	18.9	21.6	22.6	26.1	28.1	28.6	26.8	24.5	21.1	17.3	22.2
降水量	52	66.5	376	93	198	43	167.5	181	62	137.5	71	76.5	1524
1981～2011平年値	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	全年
気温	17	17.1	18.9	21.4	24	26.8	28.9	28.7	27.6	25.2	22.1	18.7	23.1
降水量	107	119.7	161.4	165.7	231.6	247.2	141.4	240.5	260.5	152.9	110.2	102.8	2040.8

課題：沖縄県の歳時記を 50 字以上で書きましょう。その際に、以下の内容を入れるとなおよい。

- 1 「暑い」「台風がよく襲来する」に類する表現を使用しない。
- 2 沖縄県の地形の特徴を説明する記述を入れる。
- 3 沖縄県の水系、風系の特徴に必ず触れる。
- 4 グループで書く内容を話し合う。

研究協議の概要

授業者：ケッペンの気候区分は、世界スケールで気候や植生を見るには便利だが、沖縄というスケールで見るとは適さないのではないかと考えた。本時以降の環境問題の学習に向けて、地域で生活する人々の生活を歳時記のように描写させることを試みた。歳時記は、人々の生活を深く見るものであり、ケッペンの気候区分を相対化するものとして授業に組み入れた。そうすることで、気候区分は何かの目的を持って作成されたものであり、万能ではないことを学習させたかった。展開 1 では、教科書にはない沖縄の知識を獲得させ、展開 2 では沖縄県の歳時記を書かせた。発表や話し合いの時間は、今後検討を重ねたい。

質問者：グループ学習に関して、気を付けていることを教えてほしい。

授業者：お互いの意見を尊重しながら学ぶことが大切と考え、クラスを超えて生徒が混ざりあうように工夫している。単元レベルでは、どの授業で取り入れるのかを検討することが大切だと思う。

質問者：今日は、アクティブ・ラーニングということで、沖縄の授業では例えば風向きの話で、夏は南西、冬は北西となっていたが、一般的な日本地理では夏は南東である。受験等も考慮した場合、事例と一般的知識の違いをどのようにすり合わせるか。

授業者：まず、一般の内容をしっかり教え、事例について教える、という順がよいと考える。

質問者：アクティブ・ラーニングの授業として、グループ学習にどのような機能を持たせていたのか。地理の授業では、例えば貯水タンクなどをみせて、（沖縄の気候と生活の特殊性が）腑に落ちて、（生徒が）アクティブな状態になったあとどういう討論を想定していたか。

授業者：（歳時記に何を書くかについて）例えば、「地形」や「水系」、あるいは「これを入れるとなおよい」などと提示して、教員が一定の方向を示すことは避け、（示された知識を）をどう使っていくかも含めて議論させたかった。3月ごろにより良いものが書けたらよいと考えている。

質問者：（歳時記を）50字以内で書かせた点ことについて。これは、学んできたことから要点を思考しないと書けない。そういう意味で、参考になった。ただやはり、外形的なアクティブ・ラーニングにはとどまってはだめだと改めて感じた。個にもっと焦点を当てての必要性を感じた。個の学びの履歴から授業を見なおす、という立場から見れば、今回の授業では個の学びがあまり見えなかった。クリティカルシンキングなど、特に大切に見たい。今回の授業では、個の学びをどう評価しているか。

授業者：今日記述したプリントは、来週点検し、個人がどう考えているかを把握する予定である。ただ、評価自体は目的ではない。

質問者：今年度の大会要項に、「生徒の学びの質を深める」と記されているが、そのために何をしているか。

授業者：様々な尺度の気づきを大切に、新しい事例に出会ったときに自分の見方・考え方を変えていけるようにさせたい。知識を基礎として、自分で考えて判断する力を身につさせたい。